

学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学びたくましく生きる子どもの育成

自分・友達・学校・自然を大切(愛せる)にできる子どもの育成

目指す学校像(ビジョン)

教育環境が整備された学校

児童が話し方・聞き方を大切にできる学校

保護者や地域の方々が参加・参画できる学校

教職員がそれぞれ職能を高めるために、自らの研修に努める学校

目指す児童像(ビジョン)

はっきりとあいさつ返事ができる子ども

たくましい子ども

かんがえて行動できる子ども

つづけて取り組める子ども(最後まで頑張れる)

こころ豊かな子ども

領域	中期経営目標	目指す学校児童像	短期経営目標	具体的方策の観点
学力の向上	基礎学力のより確かな定着を目指す。	つづけて取り組める子ども(最後まで頑張れる)	個々の児童に基礎学力(算数科)の定着率を図り、平均点80点の児童が7割を超え、60点未満の児童を5%以下とする学力アップを図る。	くりかえし学習(家庭学習)への取り組みを全学年行う。
	児童の生きる力を育むコミュニケーション力を培う学習集団づくりにむけて、指導方法の工夫・改善を図る。	はっきりとあいさつ返事ができる子ども	コミュニケーション能力(自分の思いや考えが相手に伝わる話し方・相手の話を理解しようとする聞き方)を培い育む学習集団づくりの実践。	学習振り返りカードで、自分の思いや考えが相手に伝わる話し方を自己評価させる。地域・保護者のアンケートや感想を、客観的評価として指導に生かす。
		こころ豊かな子ども		学習振り返りカードで、相手の話を理解しようとする聞き方に伝わる話し方を自己評価させる。地域・保護者のアンケートや感想を、客観的評価として指導に生かす。
豊かな人間性の育成	学校のきまりや清掃活動に、めあてを持って取り組ませ、規範意識を高める。	かんがえて行動できる子ども	名札・帽子の着用などの服装の個別指導を要する児童を減すことができる。	名札・帽子着用、服装指導の個別指導が必要な児童には、保護者の啓発の連絡等を行う。定点検査を、学級の成長(室)と新たな目標設定に生かす。
		つづけて取り組める子ども(最後まで頑張れる)	しずかに掃除活動ができる。	委員会活動・そうじ反省カード等を活用し、静かに掃除ができたが学級・学年で評価する。
		こころ豊かな子ども	心のノートを活用した道徳授業の改善を図るとともに、保護者・地域に授業を公開する。	教材を活用を工夫し、事前の通知と当日は学習の略案・感想コーナーを設けた授業を公開する。
健康安全教育の推進	安全教育、健康教育、食育、体力づくりの推進を図る。	かんがえて行動できる子ども	児童自ら、安全を意識して、学校で過ごせる。	学校でのケガを減らす(危険予知能力の育成)。廊下・階段・教室・ドア付近での歩き方の指導の徹底。施設管理の確認。ハインリッヒの法則の確認。事例研修。学校内でのケガの件数を、昨年度比較で10%減らす。
		たくましい子ども	敏捷性を高める体力づくりの工夫。	敏捷能力を昨年度より、10%向上させるために体力づくりを、体育の時間や休憩時間に、児童取り組むようにする工夫する。(5月~6月検査と10月~11月検査比較)
		かんがえて行動できる子ども	落ち着いた配膳ができ、残食も少なく、楽しい給食ができる。	配膳準備中は、机について読書などをして、静かに落ち着いて待つことや、残菜を少なくすることを委員会や学級の目標にして取り組む。
家庭・地域と連携した教育の推進	人と人とのふれあいの感動や喜びのある体験活動を通して、豊かな心を育む協同活動を取り組む。	保護者や地域の方々が参加・参画できる学校	地域・保護者の方が参加、参画した学校行事や体験学習への取り組みを図る。	各学年で、前期・後期に回らずつづけて取り組める指導計画を作成する。
		はっきりとあいさつ返事ができる子ども	自分から進んで挨拶ができる。	登校指導・朝のあいさつ・来校者などに自分から進んであいさつができたか、生活振り返りカードで自己評価させる。児童会活動・委員会活動・全校朝会・朝の会などで指導の周知徹底を図る。地域・保護者の感想を指導に生かす。
		健全な児童の生活リズムの確立に、家庭・地域と連携して取り組む。	つづけて取り組める子ども(最後まで頑張れる)	児童が家庭学習に取り組むことができる。
たくましい子ども	児童が朝食をとって登校できる。		朝食を食べて登校するように、学校だより・学年だより等で啓発するとともに、全学年において、定期的に生活リズムカードを使用し、家庭の理解を求める。	

中期経営目標	短期経営目標	最終評価指標 (成果目標)	取り組みの重点 (努力目標)	評価指標		評価指標・評価基準		
				何をもとに	判定基準			
基礎学力のより確かな定着を目指す。	個々の児童に基礎学力(算数科)の定着率を図り、平均点80点以上の児童が70%を超え、60点未満の児童を5%以下とする学力アップを図る。	確認テストの平均点80点以上の児童が70%以上で、平均点60点未満の児童が5%以下	児童のくりかえし学習(家庭学習)への取り組みを100%にする。	実施	算数科確認テスト	平均点80点以上が70%以上 平均点60点未満が5%以下	4 平均点80点以上が70%以上 平均点60点未満が5%以下 3 平均点80点以上が70%以上 平均点60点未満が5~10% 2 平均点80点以上が60~69% 平均点60点未満が5~10% 1 平均点80点以上が59%以下 平均点60点未満が5%以上	
				成果				
児童の生きる力を育むコミュニケーション力を培う学習集団づくりにむけて、指導方法の工夫・改善を図る。	コミュニケーション能力(自分の思いや考えが相手に伝わる話し方・相手の話を理解しようとする聞き方)を培い育む学習集団づくりの実践。	学習ふりかえりカード、4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5%以下	学習ふりかえりカードでの児童自己評価、地域・保護者のアンケートや感想を指導に生かす。	実施	学習ふりかえりカード 保護者アンケート	4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5%以下	4 4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5%以下 3 4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5~10% 2 4段階評価で、3、4が60~69% 1、2が5~10% 1 4段階評価で、3、4が69%以下1、2が5%以上	
				成果				
				実施	学習ふりかえりカード 保護者アンケート	4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5%以下	4 4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5%以下 3 4段階評価で、3、4が70%以上1、2が5~10% 2 4段階評価で、3、4が60~69% 1、2が5~10% 1 4段階評価で、3、4が69%以下1、2が5%以上	
				成果				
学校のきまりや清掃活動に、めあてを持って取り組みませ、規範意識を高める。	名札・帽子の着用などの服装の個別指導を要する児童を減らすことができる。 しずかに掃除活動ができる。	クラスの目標を決め、80%以上の達成	変容した児童の数	実施	定点調査カード・教職員アンケート	保護者とクラスへの啓発を毎月2回以上	4 保護者とクラスへの啓発を毎月2回以上行った 3 保護者とクラスへの啓発を毎月2回行った 2 保護者がクラスのどちらかへの啓発を毎月2回は行った 1 保護者がクラスのどちらかへの啓発を毎月1回は行った	
				成果				
				実施	児童アンケート	肯定的評価80%以上	4 児童アンケートで80%以上の肯定的評価 3 児童アンケートで80%の肯定的評価 2 児童アンケートで70%の肯定的評価 1 児童アンケートで60%の肯定的評価	
				成果				
安全教育、健康教育、食育、体力づくりの推進を図る。	心ノートを活用した道徳授業の改善を図るとともに、保護者・地域に授業を公開する。	心のノートを活用した道徳授業を全学級が公開する。	事前の通知と当日は学習の略案・感想コーナーを設けた授業を公開する。	実施	心ノートを活用した道徳授業の全学級授業公開	全学級100%の授業公開	4 心ノートを活用した道徳授業の全学級100%の授業公開 3 心ノートを活用した道徳授業の全学級90%の授業公開 2 心ノートを活用した道徳授業の全学級80%の授業公開 1 心ノートを活用した道徳授業の全学級70%の授業公開	
				成果				
				実施	保健室来室記録	昨年度より10%減	4 保健室へ来室が昨年度より10%以上減った 3 保健室へ来室が昨年度より10%減った 2 保健室へ来室が昨年度より5%減った 1 保健室へ来室が昨年度と変わらなかった	
				成果				
安全教育的、健康教育的、食育、体力づくりの推進を図る。	児童自ら、安全を意識して、学校で過ごせる。 敏捷性を高める体力づくりの工夫。 落ち着いた配膳ができ、残食も少なく、楽しい給食ができる。	保健室への来室者数を昨年度より10%減らす	学級指導・全校指導による安全指導を毎月3回以上行う。	実施	新体力テスト及び11月の反復横とびの計測値	平均値10%向上	4 10%向上 3 8%向上 2 6%向上 1 6%未満の向上	
				成果				
				実施	残菜調べ	総残菜量を昨年度より2割減	4 残菜の量が昨年度より20%以上減った 3 残菜の量が昨年度より20%減った 2 残菜の量が昨年度より10%減った 1 残菜の量が昨年度と変わらなかった	
				成果				
人と人とのふれあいの感動や喜びのある体験活動を通して、豊かな心を育む協同活動を取り組む。	地域・保護者の方が参加、参画した学校行事や体験学習への取り組みを図る。	各学年で、前期・後期に各一回以上取り組む。	地域・保護者の方が参加、参画した学校行事や体験学習への取り組みの指導計画を作成する。	実施	地域・保護者の方が参加、参画した学校行事や体験学習	各学年で、前期・後期に各一回以上の取り組み。	4 各学年で、前期・後期に各1回以上の取り組み。 3 各学年で、前期・後期に各1回ずつの取り組み。 2 各学年で、前期・後期にどちらか1回の取り組み。 1 取り組み0回。	
				成果				
健全な児童の生活リズムの確立に、家庭・地域と連携して取り組む。	自分から進んで挨拶ができる。 児童が家庭学習に取り組むことができる。 児童が朝食をとって登校できる。	はっきりとした返事や気持ちのよいあいさつが90%以上できる	年3回以上、生活リズムカレンダーによる取り組み・意識の向上を図る。	実施	児童アンケート	自分からすすんではっきりとした返事や気持ちのよいあいさつが90%以上できる。	4 児童アンケートで90%の子どもができたと答える 3 児童アンケートで90%の子どもができたと答える 2 児童アンケートで80%の子どもができたと答える 1 児童アンケートで70%の子どもができたと答える	
				成果				
				実施	生活リズムカード	生活リズムカード記入回数80%以上の児童が70%以上	4 生活リズムカード記入回数80%以上の児童が70%以上 3 生活リズムカード記入回数80%以上の児童が60%以上70%未満 2 生活リズムカード記入回数80%以上の児童が50%以上60%未満 1 生活リズムカード記入回数80%以上の児童が50%未満	
				成果				
家庭への呼びかけ・生活リズムカレンダーによる取り組みを年3回以上行う。	朝食が大切であるとうことを、懇談などで家庭に年6回以上呼びかける	家庭への呼びかけ・生活リズムカレンダーによる取り組みを年3回以上行う。	実施	教職員アンケート	家庭に年6回以上呼びかける	4 朝食の大切さを年7回以上呼びかけた 3 朝食の大切さを年6回呼びかけた 2 朝食の大切さを年5回呼びかけた 1 朝食の大切さを年4回呼びかけた		
			成果					